

特定非営利活動法人 日本小児血液・がん学会
第 19 回（平成 26 年度第 3 回）理事会議事録

日 時：2014 年 12 月 23 日（火） 10：00～12：00
場 所：国立がん研究センター第 3 会議室（管理棟 1 階）
出 席 者：堀部 敬三（理事長）
越永 従道（副理事長）
井上 雅美、小川 千登世、小原 明、菊田 敦、嶋 緑倫、滝 智彦、
田尻 達郎、檜山 英三、堀 浩樹、米田 光宏、野崎 美和子（以上理事）
花田 良二（監事）
黒田 達夫（第 58 回学術集会会長）
欠 席 者：大賀 正一、前田 美穂、田中 祐吉（以上理事）
田口 智章（監事）
杉田 完爾（第 57 回学術集会会長）、
石井 榮一（第 59 回学術集会会長）

議 長：堀部理事長

冒頭に、本日の理事出席者数は 16 名中 13 名であり、定款 27 条 2 項に定める定足数を満たしているため、本理事会は成立することを確認し、以下の議案について逐次審議に入った。

I. 議事録署名人の選出

堀 浩樹理事、小原 明理事が選任された。

II. 議題

1. Pediatric Blood and Cancer（以下 PBC）閲覧権の提供の仕方について

堀部理事長より、PBC の閲覧権を会員へ付与する際、購読希望者のみ 3,000 円の購読料を徴収し閲覧権を提供し、支払不足額（推定 84 万円）は学会誌のオンラインジャーナル化により削減できる費用分（推定 280 万円）を充ててはどうかとの提案があり、議場へ意見を求めたところ、討議がなされ、以下の決定が確認された。

- 1) 閲覧権を希望する会員に年間 3,000 円で閲覧権を付与する。
- 2) 出版社 WILEY への支払金額として不足する費用については本会が負担する。
- 3) 上記の本会負担費用は、学会誌オンライン化により削減できる予算を充てる。
- 4) 会員へのアンケート結果から、閲覧権希望者は約 200 名を予想しているが、もし希望者が予想より大幅に多数の場合、学会財務に影響を及ぼす可能性について早急に検討・対策を行う。

- 5) 1 月中に会員が閲覧権を受領できるように年内から募集を開始する。その際、PBC を本学会のオフィシャルジャーナルにする理由として、学会の国際的地位を高めるために会員の国際活動を支援すること、その一環として希望者に PBC 閲覧権(会員価格 60 ドルのうち 3,000 円を自己負担、残りを学会負担)を提供すること、および学術集会応募演題の中から PBC 掲載を推薦する論文を選定する制度を設けることを通知する。

2. Editorial Board および Associate Editor の推薦について

堀部理事長より、PBC から要請があった PBC Editorial Board への本会推薦 2 名、PBC Associate Editor への本会推薦 1 名について、議場に意見を求めたところ討議がなされ、以下の決定が確認された。

- 1) Editorial Board : 国際委員会堀浩樹委員長、檜山英三副委員長の 2 名を推薦する。
また、PBC の任期である 3 年が終了した時点で、その時の国際委員会委員長、副委員長に交代する。
- 2) Associate Editor : Associate Editor の業務負担が大きいことから、また、今後の交渉面も考慮し Editorial Board 選考基準を確認してから Associate Editor を推薦することとし、当初は推薦を見合わせる。まずは本学会として積極的に投稿、査読に参加(関与)することが先決であるが、将来的には、本学会からの Editorial Board 増員要求、専門領域ごとの推薦も考慮すべきである。
- 3) Editorial Board は、reviewer として業務負担があることから、理事、評議員が review 依頼に積極的に協力する。現在学会誌の査読もあり、多くの reviewer を募る必要があるため、本会として多くの査読を行った reviewer を表彰できる体制を国際委員会と学会誌編集委員会で合議の上、以後検討することとなった。

3. PBC 掲載論文推薦のあり方について

堀部理事長より、学術集会において Plenary session に採択された演題を PBC へ推薦するとの提案があり、議場へ意見を求めたところ、討議がなされ、以下の決定が確認された。

- 1) 2016 年の学術集会に向けて、PBC への推薦論文を選定する体制を構築する。2015 年に募集があれば別途対応するかについては、体制構築未定の現在では審議できないため今後検討することとなった。
- 2) 上記の選定については新たに委員会を組織する。
- 3) 上記の選定については全演題(ポスター演題、口演を含む)を対象とする。
- 4) 上記の選定へ応募できるのは会員のみとする
- 5) 上記の新委員会にて、投稿された論文を改善し、適宜投稿者へ指導や提案を行う。
- 6) 選定された推薦論文へは本会より推薦書を付与し PBC へ推薦する。
- 7) PBC に掲載された英文論文と内容が同等である和文論文が本学会誌に掲載されること

が契約上違反となるかについては、ジャーナル毎の契約によって異なるため、今後契約を確認することとなった。

4. 学術集会英文抄録の PBC 掲載について

堀部理事長より、学術集会英文抄録を PBC に投稿する際、一次抄録のままか、二次抄録を求めるかについて議場に意見を求めたところ、討議がなされたが、学術集会英文抄録の PBC 投稿の可否を含め継続審議となった。

5. PBC 閲覧権購入費の学会負担について

堀部理事長より、PBC 購読者数増加に伴う PBC 購読料の本会負担額の上限について議場へ意見を求めたところ、当初の購読者数が判明した後に、改めて検討することとなった。

6. PBC の契約条件について

PBC をオフィシャルジャーナルにするにあたって、小児外科の各理事から、日本小児外科学会や小児外科領域の主要な国際学会が海外英文誌出版社と締結しているオフィシャルジャーナルの条件に比べて、今回の契約条件では本学会の立場が弱すぎるとの意見が出されたが、小児科系理事からは、契約条件の中に推薦論文の迅速査読や学術集会抄録の掲載の可能性が記載されており、PBC をオフィシャルジャーナルとする他学会と同等の権利が認められていることから、まずは、学会として PBC を介した情報発信や会員に PBC への投稿を促進する方策を推進することで PBC における日本の地位を高めることが先決であるとの意見が出された。上記および前項までの議論を踏まえ、Wiley から提示された PBC に関する契約内容について承認となった。

7. その他

1) 一般社団法人化 WG のメンバー構成案について

堀部理事長より、一般社団法人化に向けたワーキンググループを組織し、構成員として庶務委員会、財務委員会、規約委員会それぞれの委員長、副委員長、および理事長の計 7 名で構成してはどうかとの提案があり、議場へ承認を求めたところ、全員異議なく本案は可決された。

2) 対外委員について

堀部理事長より、厚生労働省健康局疾病対策課から第二次実施分指定難病の検討を行う指定難病検討委員会と本会の連絡窓口を 1 名選定する依頼が来ていることについて、議場へ意見を求めたところ、討議がなされ、菊田理事が担当することとなった。

議長は、以上をもって本日の議案の審議を全て終了した旨を述べ、閉会を宣した。